
人生時限爆弾

A L V

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人生時限爆弾

【Nコード】

N6293D

【作者名】

ALV

【あらすじ】

ある中学生に仕掛けられた爆弾。それは人生に仕掛けられた。少年は爆弾を仕掛けた者の出すミッションをこなし爆弾解除を試みる。

プロローグ

「目を覚ましたまえ。」

誰かの声がする。

僕はちょうど目が覚めた時だった。

まだ明るくならない視界。夜だ。まだ朝ではない。

時計を見ると、

時計は、まだ3を指している。

「君にはある爆弾が、仕掛けられた。」

また誰かの声だ。

低い男性の声。

頭の中に直接響く。

僕は問い掛けた。

「爆弾って？貴方は誰？」

「私は君に爆弾を仕掛けた者だ。詳しくは教えられない。だが、爆弾については教えよう。」

夢じゃないのか？

「爆弾は、君の人生仕掛けられた。時限爆弾さ。」なるほど。なんて納得できる奴はいないだろう。

「人生に、爆弾？」

「そうだ。これが爆発すれば、君はその場の状況に応じて何らかの形で死ぬ。だが、この爆弾は解除できる。時間内に指令に従い、そ

のミッションを達成すればいい。」

「ミッション……。」「

ありえない。マジかよ。

まだ死にたくねー！。

こいつは何者なんだ？

神様？だとしたら、間違いなく死に神さんだ。

僕は死に神さんに聞いた。

「時間内につて、後どれくらいの時間なわけ？」

「一ヶ月だ。」

ミッション：1

「ミッションって？」

空は明るくなっていた。

家族はまだ起きていない。他の人にはこの男性の声は、聞こえてないようだ。

「学校を休め。一ヶ月以内に出来ればミッションは、クリアだ。」

「へ？」

それだけ？

なめてんの？

ヤッター！

人生時限爆弾解除って、

警察の解除班がやるみたいに
緊迫したものじゃないんだ。

「せいぜい頑張ってたな」

この言葉を機に、頭がすつきりした。

忠告には及ばない。

さて、軽く仮病でもしますか。

「母さん、頭が痛い。」

わざと暗い顔を試みせた。

「ふーん、でも学校は行きなさい。」

「なんで！？気分も悪いしとても学校になんか…」

「もうすぐ試験でしょ。これ以上成績を下げたいの？」

「もう駄目、しんどすぎて口論する気が起こらない。寝るね。学校に電話お願い。後頭痛薬、今ので切れたから買っといたら？おやすみ。」

そしてそのまま

自分の部屋に戻った。

これで学校が、終れば

ミッションは、

果たした事になるはずだ。

ね。死に神さん。

午後4時になった。

学校終了時間だ。

突然死に神さんの声が響く。

「おめでとう。ミッションクリアだ。さあ、次のミッションだ。」

……………は？

ミッションって、

1つじゃないの？

「あー、死に神さん。ミッションって何個あるんですか？」

「私は死に神ではないんだが…。ミッション数は6だ。しかも、1つめのはほぼ冗談のようなものだ。後の5つは死ぬ気でやらんと、

達成できんぞ。」

なんだってええええ!？

ミッション2・SIDE A (前書き)

ネタ・作者の事情上、続きはかなり遅くなる場合があります。申し訳ありません

ミッション2・SIDE A

「あのさ、死に神さん」

「だから私は、死に神ではない。」

「じゃああなたは何者なわけ？」

「……………」。

「答えないんだ。なら、僕は死に神さんって呼ぶね」
「それだけはやめろ。」

「じゃあ名前くらい。」

「だめだ。」

「死に神」

「うるさい」

「死に神」

「今すぐに爆発させてやるつか？」

「できるの？」

「簡単ぢや。」

「すみませんでした。」

「わかれば、いいんだ。」

さて、仲良く話しているようだけど、死に神さんの姿は無いわけで、他人から見ると、ただの馬鹿だったり。

「それで？次のミッションは？」

「うん、次な。あんまり発表したくないんだが……」

「なんなんだよ？」

「明日から始まるミッションなんだが、逮捕術を今のうちに身につけとけ。」

「逮捕術う？次のミッションのためにい？」

「そうだ。」

「次のミッションって、なんなんだよ？」

「逮捕。」

「ああ、それで逮捕術を……って、逮捕お！？」

「うん。しかも強盗犯」

「いやだ。」

「やりたくないなら、別にいいんだよ。死ぬけど。」

「もつといやだ。」

「イヤ、そうでもない。必死でミッションを頑張っても達成できずに死ぬかもしれない。それならば残り一ヶ月を有意義に過ごせばいいじゃないか。逮捕ぐれえでビビるなら、多分、イヤ、確実に最後のは、達成できない。」

「他はできるんだ。」

「お前次第、だな。それでも難易度は、かなり高い。どんなゲームにもこなせないゲーム並だな。」

「わかったよ。やってみる。逮捕術：は、無理だけど、運よくいけば犯人逮捕できるかもしれないから。」

「まあ、頑張つてな。」

「あ、そういえばさあ、なんで俺の人生に爆弾を仕掛けたわけ？」

「それが俺の仕事だからさ」

「詳しくは？」

「「教えられない」」

二人同時に言った。

そんなことにはおかまいなしで、死に神さんは、続けた。

「それに俺は爆弾により失くなった人生分をもらい、そして俺は、生きていく。」

「それってあの殺人ノートの漫画にでてくるリユー じゃんか！やっぱ死に神だあああ！！」

「気にするな。偶然だ。それから、何回も言うが俺は死に神ではない。」

S I D E B へ 続 く

ミッション2 SIDE B

- 翌日 -

朝、テレビを見ると、

トップニュースは、銀行に強盗が入り、300万円を脅し取り逃走した、まあ簡単にいえば僕のミッションが、報道されていた。そう、この強盗犯を捕まえなくてはならない。

爆竹三つもって、外に。

いきなり目の前を車が。

かなりのスピードを出したためだろう、すぐそこで事故りやがった。まさか？

車から大きな袋を担いだ男が、でてきた。まさか？

袋からは1万札が2枚でてきた。まさか！？

思わず爆竹を全部いっぺんに投げてしまった。

パパーンッ！

これに驚いたか犯人らしき人物。腰をぬかしてしまった。近くにいたヨボヨボのばあさんと一緒に。

すぐに持ってきたロープで足を手に括りつけてよくある形にして、電話した。

警察と、ばあさんのために救急車もね。

ってかばあさん痙攣してるぞ？マジ大丈夫か？

「テメーぶつ殺してやるからなクソ野郎！クソ、ほどけんぞ、テメー、固結びは反則だ！このヤロ、今捕まるとヤバイんだよ！スマンって。見逃してくれよ！」騒ぐ犯人は無視してばあさんを見ながら救急車を、ああ後警察をまつた。

それから、あの強盗犯は実に16人を殺していたことが警察からの

説明でわかった。僕の手柄により無事逮捕。ということ感謝状
で送られてきた。
死に神さんからはおめでとう、とだけ言われ、この日は何も話さな
かった。

あんまりにも簡単にミッションをクリアされて、へこんでしまっ
たんだらうか？

確かに爆弾解除は楽そうだ

MISSION SIDEA (前書き)

会話ばかりです。

ミッション3 SIDE A

「おきろ」

死に神さんの声で僕は
目をさました。

「ふあ〜。おはよう」

「ああ。おはよう」

「次のミッションだね？」

「ん……………」

「元気ないね」

「…」

「まあいいや。で、次のミッションは？」

「よし。説明すらからよく聞けよ。3つめのミッションはマジ難しい。近くにゲーセンがあるだろ？」

「ありますね。GAY専が隣に。」

「いやいやいや！ゲームセンターのことだ」

「わかってるって」

「そこにある某太鼓叩きの達人ゲームでフルコンボの成績をおさめるのだ」

「な・ん・だ・と」

「難易度や曲は私が決める。さあ！今すぐゲーセンにいくぞ」

「すげえな。なんか。」

「……(ノ>＜)ノ……」

「ついたな」

「じゃあ、死に神さん。

この太鼓 達人をやればいいんだね。」

「うむ！しかしコレ200円もするの………」

「さあ。難易度は鬼だよな」

「まあな」

「曲は？」

「ZERO LAND MINE。」

「(なぜ)」

注：太鼓 達人シリーズにこの曲はないと思います。

『さあ、はじまるドン!』

――〇(^ - ^) (〇 ^ - ^) 〇――

『ノルマクリア失敗』

「むりだろうが。こんな」

「できなければ死だからな」

「僕は太鼓になんかまけないからな」

「よくいった!」

そして、

ぼくは必死に叩いた。

ノルマクリアすらできなければ、もう一曲演奏権すらもらえないらしい。

気がつくと、

財布のなかにはあと20円しか残ってなかった。

しかたがないから

この日は家に帰った。

途中、財布をスられた。

しかし中身は20円である

可哀相な奴もいたもんだ。

S I D E B へ つ づ く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6293d/>

人生時限爆弾

2010年10月8日22時03分発行